

## 国際交流支援システムの開発及び実証実験

名古屋市立西陵商業高等学校 影戸誠, 名古屋市立緑高等学校 久賀史恵, 埼玉県立和光国際高等学校 杉本範雄  
 豊島区立池袋第三小学校 広兼東子, 株式会社三菱総合研究所 佐藤慎一  
 キーワード 国際交流の活性化, 英文電子メール, インターネット

### 1. はじめに

国際交流を授業等で展開することを考えた場合, 自己紹介や自国文化の紹介等の電子メールによる交流からはじまることが多い。しかし, その第一歩としての「英語による電子メールを作成」は依然敷居が高く, 国際交流に踏み切れない学校が多いのも実状である。こういった障壁を少しでも低くし, 児童・生徒による国際交流が促進されることを願い, 国際交流支援システム(以下, 本システムという)を設計開発した。開発したシステムは, 授業時間での利用を中心に国内外で幅広く利用してもらい, アンケート等により評価を行った。

### 2. 開発システム

#### 2.1 システム概要

英文メールを作成する際, 英語が得意な人, あるいはネイティブの人が利用した表現を控えておき, 自分でもその表現を使うということがある。本システムは, このような「英借文」を体系的に行えるようにし, 英語でのメールを短時間で容易に作成できるように支援するものである。国際交流によく利用される文章を例文として登録しておき, それらを表現したいイメージやキーワードを入力することにより検索する。提示された例文を適用したり, 必要に応じて単語を差し替えたりしながら英文メールを作成していく。

容易に英文メールを作成可能とすることにより, 英文を作成する際の敷居を低くし, 結果としてより活発な国際交流が行われることを狙っている。例文には, 日本語と英語をセットで登録しているため, 海外の日本語学習者が英語をキーワードとして日本語のメールを作成することも利用可能である。

作成したシステムは <http://is.im.mri.co.jp/~english/> で公開している。

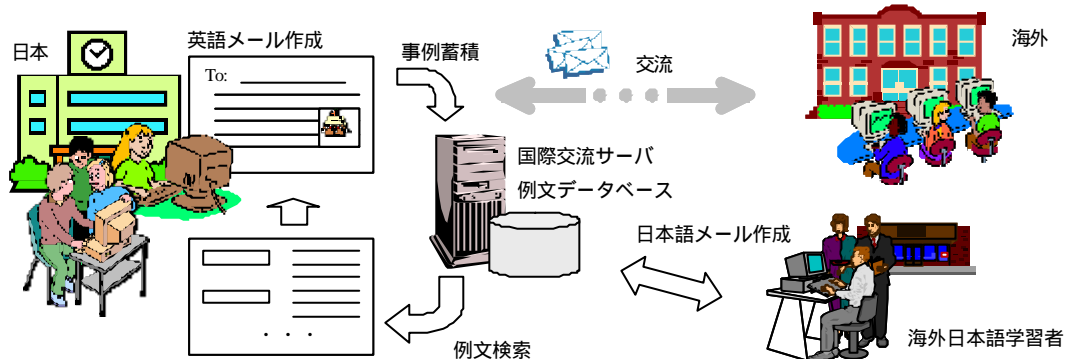


図1 本システムの利用イメージ

#### 2.2 システム機能

本システムを利用するには, メールを送受信するという特性上, まずログインを行う。例文の検索にあたっては, 所定のカテゴリの中から平易な例文のみを検索する初級モード, 適当なキーワードを入力してやや高レベルの例文まで表示される中級モードを用意している。中級モードで例文を検索し, メール本文を作成する画面を図2に示す。画面左側のフレームが検索条件を入力する画面である。カテゴリを選択したり, 適当なキーワードを入力したりして検索すると, それに対する候補例文が右上のフレームに表示される。表示された例文から自分の表現したい, あるいはそれに近い例文が見つければ, その例文の番号をクリックする。すると, 当該例文がメール編集用の右下フレームに貼り付けられる。必要に応じて単語を差し替える等, 例文を編集して文章を作成していく。文章を編集する際の支援機能として, 中学・高校レベルの単語が登録されている辞書が利用可能である。また, 文章作成のために選択した例文(英文・日本語のペア)を振り返ることもできる。こうして作成した文章は, 宛先, タイトルを入力して, また必要に応じて画像等を添付の上, そのままメール送信することが可能である。

また, 同様の方法で日本語によるメール作成が可能である。この際には, 検索された例文の番号を選べると日本語が文章編集用の画面に貼り付くことになる。

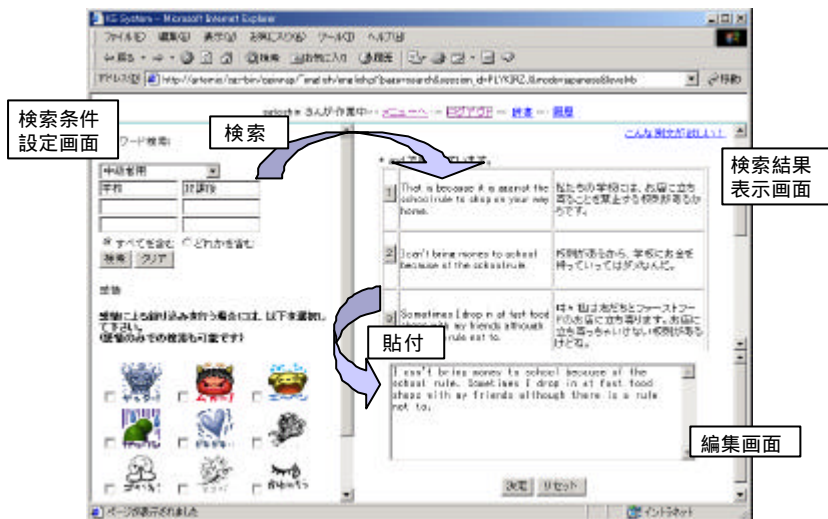


図2 例文検索・編集画面

## 2.3 例文及びコンテンツ

例文は、学校における国際交流の際に実際に利用できるものを収集するように心がけた。具体的には、国際交流の実践プロジェクトの中で、実際に活用されている例文、交流の中で生徒自身が表現したいと思っていることを中心に、英語教員の取りまとめの下で収集した。季節的なことを話題（夏休み、クリスマス、正月等）としたメール交換も多いため、生徒が表現したい文章は、1度だけではなく時期を変えて適宜集めることにした。今後も継続的に増やしていき、生きた例文を提供していければと思う。

また、学校で、特に授業で利用することを想定すると、生徒ごとの進捗に差が出て

くる。本プロジェクトでは、国際交流時の生徒に対するインタビューを動画コンテンツとして作成し、サーバ上で提供している。早く終わった生徒がヒアリング等の自習に用いることができ、時間を無駄にしない。自分達と同年代の生徒が英語で話しているということは刺激にもつながるであろう。

## 3. システムの実証評価

### 3.1 評価の実施

本システムの有効性を確認するため、小学校6年生から高校生までの児童・生徒、指導する側の教員、海外における日本語学習者等、非常に広範囲に亘ってシステムを利用してもらった。学校においては、実際に1クラス（40人規模）単位での活用も行われた。システムの利用者に Web 上でアンケートを提示して回答を収集するとともに、授業で利用した教員には、授業で利用する際の留意点、児童・生徒の様子等を中心にレポートを記述してもらった。図3に本システムを授業で利用していた様子を示す。



図3 授業での利用風景

### 3.2 評価結果

教員のみが試用した学校では「是非授業で利用したい」という意見が多く、その上で、システムに対する新たなアイデア等を頂いた。授業で利用した教員からは、「英語が得意でないと諦めていたような生徒までもが真剣にメール作成に取り組む感動した」という声まで聞かれた。さらに、生徒自身からは、英語が得意でない生徒の場合には「短時間でメールを作成できて積極的な交流への意欲がわいた」という意見が多く、英語が得意な生徒でも「実際にメールで使われる表現について学ぶことが多かった」という意見を挙げている。システムを利用して思った通りのメールが作成できたかどうかという質問には、79%の生徒が作れたと回答しており、国際交流の第一歩を踏み出すきっかけを与えるという意味では、本システムは有効に機能していると考えられる。また、「次にはこんなことも表現したい」等、例文のさらなる充実を求める声が多かった。

一方で、簡単にメールが作成できるあまり、英語力として身につくかの懸念を指摘する声もあった。しかし、我々は国際交流への第一歩を踏み出すことこそ重要であるという信念のもと活動を行っている。その結果コミュニケーションの手段としての英語力は必然的に身につくものである。実際に通じることが大切であり、そのためには生きた英文を覚えることも重要であると考えている。

## 4. まとめ

国際交流に踏み出す学校の輪を広げたいという希望のもと、それを支援するためのシステム開発を行い、教員や児童・生徒による実証評価を行った。本システムを提供することにより、国際交流の第一歩を踏み出す学校を増やし、既に国際交流を行っている学校に対してはその交流をより深めていければと思う。交流を深めるための手段としての本システムを今後広めるとともに充実させていきたい。